

東北地方 暖候期予報

(4月から9月までの天候見通し)

平成15年3月10日

仙台管区气象台発表

< 夏 (6 ~ 8 月) の気温の各階級の確率 (%) >



夏 (6 ~ 8 月) 平均気温は平年並の可能性が最も大きく、その確率は 5 0 % です。

< 可能性の大きな天候見通し >

4 ~ 5 月 高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みですが、一時寒気が南下して晩霜の降りる恐れがあります。

この期間の平均気温、降水量共に平年並の見込みです。

6 ~ 9 月 6 ~ 7 月は梅雨前線や低気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多く、オホーツク海高気圧が東北地方に張り出して天気がぐずつく時期もあるでしょう。その後は太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多い見込みですが、太平洋高気圧の勢力が弱まり、オホーツク海高気圧や前線の影響で曇りや雷雨となる時期もあるでしょう。

6 ~ 7 月 (概ね梅雨期間に相当) の降水量は多い見込みです。

< 次回発表予定 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 3 月 1 4 日

3 か月予報 : 3 月 2 5 日 (火曜日) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温，降水量）

	気 温 ()				降 水 量(mm)			
	6 月	7 月	8 月	6～8 月	6 月	7 月	8 月	6～8 月
大船渡	17.3	21.0	23.0	20.4	171.5	170.3	198.6	546.4
新庄	18.7	22.3	23.9	21.6	131.0	185.6	174.5	491.1
若松	19.8	23.4	24.8	22.7	115.7	160.1	131.0	406.9
深浦	17.2	21.3	23.1	20.5	109.4	146.0	157.4	411.1
青森	17.0	21.1	23.0	20.4	82.2	102.6	129.3	314.1
むつ	15.6	19.6	21.7	18.9	109.0	122.8	140.4	372.1
八戸	16.1	20.2	22.3	19.6	99.2	117.1	139.8	356.1
秋田	18.8	22.8	24.5	22.0	127.5	178.1	181.9	487.6
盛岡	18.2	21.8	23.2	21.0	114.9	165.7	177.8	458.4
宮古	16.0	20.0	22.2	19.4	117.3	139.2	180.8	437.2
酒田	19.3	23.2	24.9	22.5	128.1	186.1	175.8	490.0
山形	19.5	23.2	24.6	22.5	102.6	143.9	148.8	395.3
仙台	18.3	22.1	24.1	21.5	137.9	159.7	174.2	471.8
石巻	17.7	21.3	23.5	20.8	111.6	131.0	127.0	369.6
福島	19.9	23.5	25.2	22.9	118.1	144.8	144.3	407.2
白河	18.4	22.0	23.3	21.2	167.6	186.8	228.2	582.7
小名浜	18.3	21.7	23.9	21.3	149.8	120.5	141.7	412.0

（２）1971～2000 年のデータに基づいた 6～8 月地域平均の気温，降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	6 月	7 月	8 月	6～8 月
気温平年差 ()	東北地方	-0.6～+0.2	-0.1～+0.6	-0.3～+0.6	-0.4～+0.3
	東北日本海側	-0.5～+0.2	-0.2～+0.4	-0.5～+0.5	-0.4～+0.1
	東北太平洋側	-0.5～+0.2	-0.3～+0.8	-0.3～+0.5	-0.5～+0.5
降水量平年比(%)	東北地方	82～ 118	89～ 117	73～ 117	82～ 110
	東北日本海側	71～ 105	83～ 123	74～ 107	84～ 111
	東北太平洋側	88～ 111	85～ 114	67～ 120	85～ 112

（３）梅雨前後における各地の平年の気象経過

旬降水量 平年値(mm)	5 月			6 月			7 月			8 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大船渡	50.0	55.9	43.9	50.9	60.7	57.6	63.0	69.1	38.2	50.3	56.9	91.5
新庄	40.5	35.8	30.4	25.7	45.3	60.0	64.4	78.1	43.1	60.5	45.3	68.6
若松	27.5	29.3	23.7	20.3	33.7	61.7	56.1	60.5	43.5	47.2	39.1	44.8
深浦	41.3	33.5	34.0	29.4	44.4	33.6	54.4	43.2	48.3	53.8	38.6	65.0
青森	30.0	22.6	26.2	23.6	30.9	27.8	36.8	27.7	38.2	43.2	33.8	52.3
むつ	35.8	27.6	28.8	36.3	36.8	35.8	48.1	39.4	35.3	43.2	32.8	64.4
八戸	26.1	28.6	30.1	26.6	38.1	34.5	48.3	31.7	37.1	37.3	38.2	61.7
秋田	46.5	40.2	36.2	29.7	50.6	47.2	71.5	61.5	45.1	56.8	51.5	73.6
盛岡	38.6	32.7	32.0	30.8	43.3	40.8	56.8	58.2	50.7	58.6	43.7	75.5
宮古	31.9	35.5	31.0	29.5	43.7	44.1	53.8	46.4	39.0	49.5	50.0	81.3
酒田	44.7	37.7	34.4	24.9	46.4	56.7	70.1	70.7	45.3	57.4	40.0	78.4
山形	27.0	30.3	24.0	24.4	28.2	50.0	44.5	56.2	43.2	50.1	36.3	62.4
仙台	33.7	45.0	29.3	31.6	42.4	63.8	55.7	63.5	40.5	55.3	45.4	73.6
石巻	33.3	37.6	27.3	27.2	31.9	52.6	46.1	52.1	32.9	36.1	33.3	57.6
福島	25.9	35.8	25.8	25.4	31.4	61.4	46.5	53.6	44.8	45.7	36.5	62.2
白河	40.4	41.3	38.2	40.1	55.5	72.0	65.0	69.4	52.4	65.8	62.8	99.7
小名浜	48.3	60.3	38.5	35.3	47.4	67.1	49.5	46.3	24.7	46.3	33.5	61.9

旬日照時間 平年値(h)	5月			6月			7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大船渡	61.1	61.1	74.1	59.0	50.1	39.1	45.3	41.9	63.0	59.3	51.4	50.9
新庄	55.7	56.8	67.6	59.7	53.2	39.9	40.8	45.3	68.4	60.6	61.3	55.6
若松	62.8	60.1	74.9	63.9	53.9	40.1	46.8	45.6	76.6	67.8	66.4	65.3
深浦	58.4	63.9	75.1	64.5	58.6	56.6	52.7	56.1	68.9	63.3	61.8	60.8
青森	64.7	68.3	77.5	64.0	59.6	57.1	53.8	56.3	67.2	67.0	60.8	63.1
むつ	64.9	65.4	77.5	61.2	52.8	48.7	47.3	45.8	58.0	57.6	46.5	48.9
八戸	65.6	64.9	77.1	61.9	56.5	50.5	51.0	51.5	66.6	62.8	56.3	54.3
秋田	56.9	61.2	73.2	65.6	59.5	53.1	49.3	52.8	69.5	65.5	68.0	66.9
盛岡	61.3	61.7	71.9	57.8	51.3	42.6	42.2	42.0	59.1	56.4	52.9	49.6
宮古	61.6	59.4	70.8	55.3	45.3	39.8	44.9	40.8	63.9	57.7	54.7	53.0
酒田	60.5	62.3	76.6	66.2	60.0	49.7	46.5	53.4	80.0	71.0	72.3	68.3
山形	62.9	62.0	76.9	62.2	52.3	39.3	42.7	43.2	70.0	61.9	61.8	61.0
仙台	63.5	60.6	74.6	54.1	43.1	30.9	35.7	37.0	55.4	56.3	49.5	49.7
石巻	65.1	63.8	77.6	59.5	48.6	37.6	42.6	44.5	62.4	62.7	57.9	57.6
福島	64.1	59.7	74.2	54.6	43.6	32.0	37.8	37.1	58.8	57.7	51.5	50.6
白河	59.9	59.1	69.5	51.9	41.4	28.9	35.9	35.5	58.9	54.1	50.3	49.7
小名浜	62.7	62.4	74.5	58.5	44.9	35.2	42.1	41.9	69.4	66.0	65.0	63.0

(4) 接近する台風の平年値

	6月	7月	8月
東北地方	0.1	0.3	0.7

< 参考資料 (利用上の注意) >

- (1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 暖候期予報（４～９月）解説資料

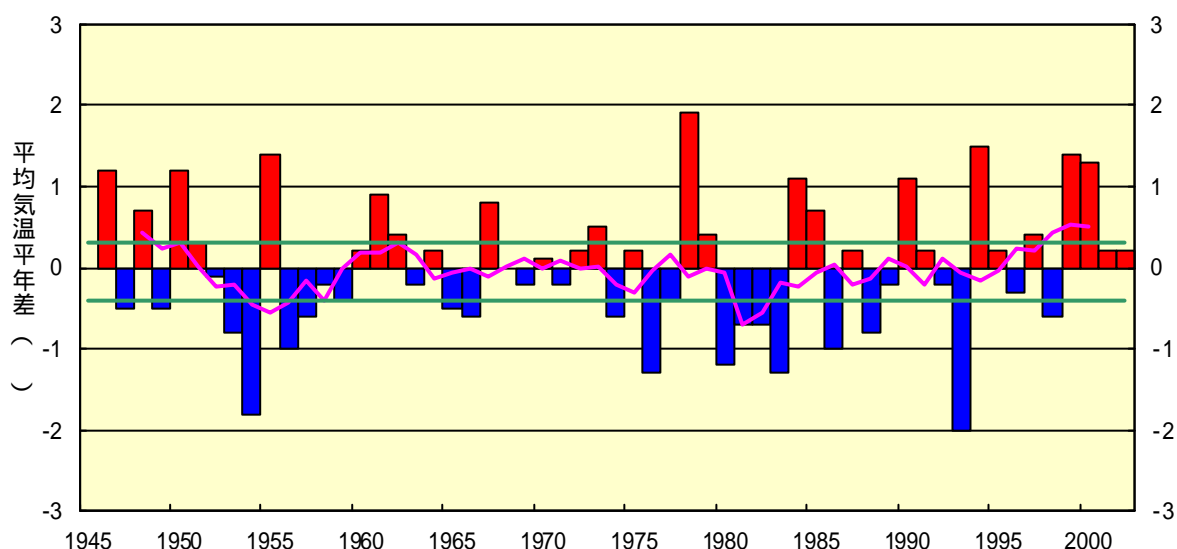
平成 15 年 3 月 10 日 仙台管区气象台

１．長期的な傾向

（１）最近の夏（６～８月）の天候

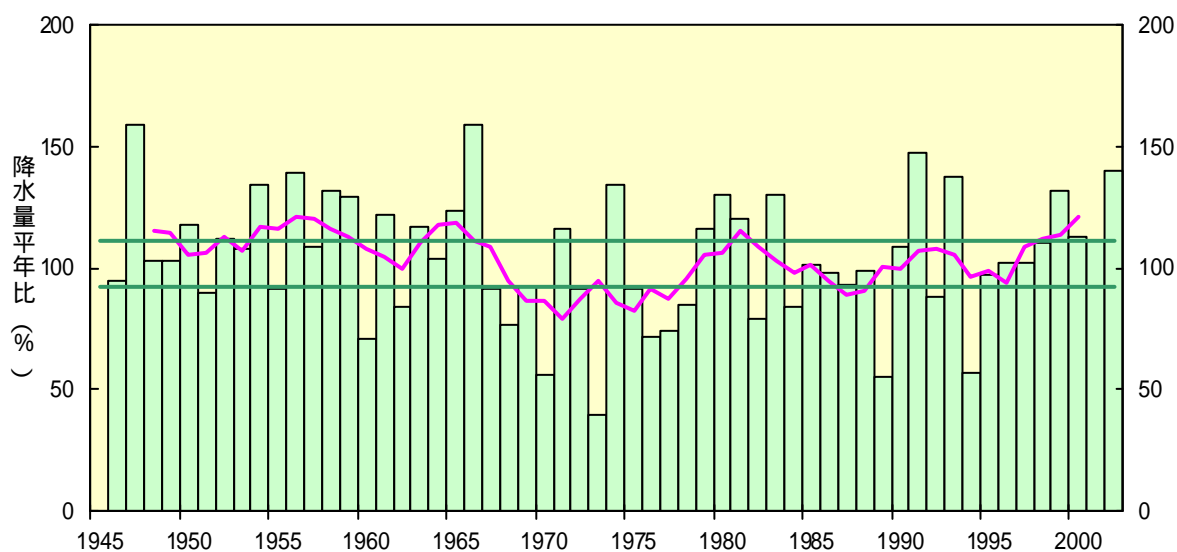
東北地方の夏（６～８月）の平均気温は、1950 年代後半から 70 年代前半は年々の変動が小さかったが、70 年代後半からは変動が大きくなっている。1990 年代に入っても、93 年の記録的な冷夏、94 年の記録的な暑夏と極端な天候が現れており、99 年、2000 年も 2 年連続して暑夏となった。一昨年（2001 年）昨年（2002 年）の平均気温は平年並だったが、一昨年は 7 月に記録的な高温、8 月は一転して低温、昨年は 8 月に東北北部を中心として不順な天候となるなど、月別には極端な天候が現われている。

なお、5 年移動平均の推移からは年や冬（12～2 月）平均気温に顕著に現れる昇温傾向など長期的な傾向は見られない。



東北地方の夏（６～８月）の平均気温平年差の推移

棒グラフ：平均気温平年差 太線：5 年移動平均値 細線：-0.4 平年並の範囲 0.3



東北地方の 6～7 月の 2 か月間降水量（概ね梅雨期間の降水量に相当）平年比の推移

棒グラフ：降水量平年比 太線：5 年移動平均値 細線：92% 平年並の範囲 111%

東北地方の 6～7 月の 2 か月間降水量（概ね梅雨期間の降水量に相当）は、1960 年代後半から年々の変動が大きく、1990 年代に入っても 91 年や 93 年の多雨、94 年の少雨と変動が大きかった。しかし、1990 年代後半から 2 か月間降水量は平年並か多雨が続いている。昨年（2002 年）は、7 月に台風が 2 個上陸・通過し、活発化した梅雨前線の影響もあって記録的な多雨となった。

下表は、1981 年以降の東北地方の夏（6～8 月）の天候の特徴である。ただし、夏の特徴については全国的な天候の特徴を示す。

最近 10 年では、1993 年の低温・多雨・寡照、94 年の高温・少雨・多照、98 年の多雨・寡照など平年から大きく隔たった天候が現れており、東北地方では年々の変動が大きかった。

1981 年以降の東北地方の夏（6～8 月）の天候の特徴

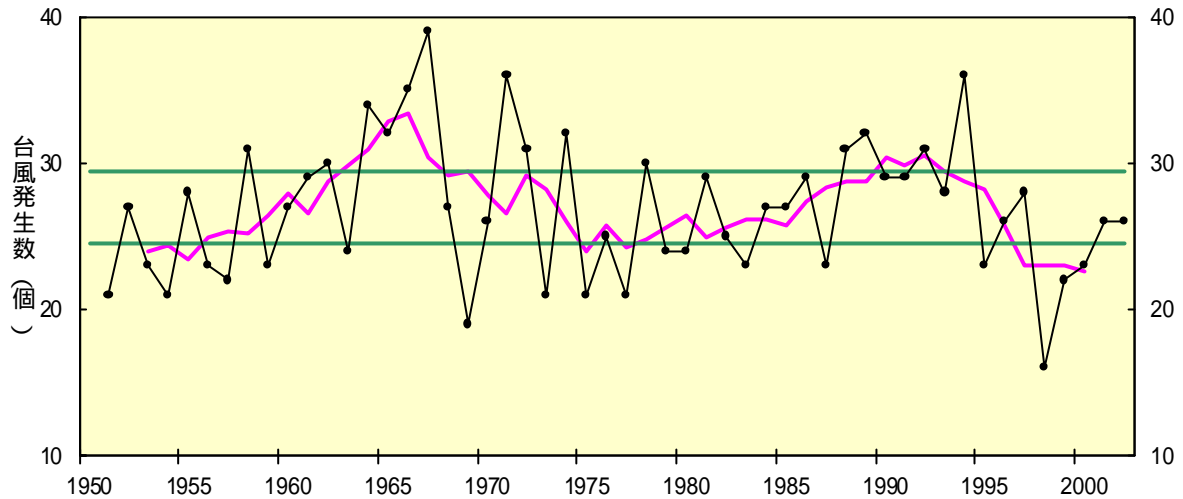
年	平均気温 平年差 ()	降水量 平年比 (%)	日照時間 平年比 (%)	夏 の 特 徴
1981	-0.7(-)	135(+)	93(-)	梅雨寒 7 月梅雨前線日本海側 盛夏期短い 水害多発 冷害
82	-0.7(-)	79(-)	109(+)	梅雨前半不活発 後半活発 長崎豪雨 盛夏短い 水害多発 冷害
83	-1.3(--)	110(0)	89(-)	林-ツグ高 北日本低温寡照 冷害 梅雨不活発 猛暑
84	1.1(+)	62(--)	115(+)	陽性梅雨 盛夏初め不安定 8 月猛暑少雨多照 干害
85	0.7(+)	76(-)	122(++)	梅雨活発 梅雨寒 盛夏期猛暑少雨多照 台風接近多い(6 個)
86	-1.0(-)	109(0)	101(0)	梅雨活発 林-ツグ高 梅雨寒 盛夏期短く西日本少雨
87	0.2(0)	112(+)	96(0)	梅雨 7 月活発 夏型不安定 林-ツグ高 雷雨多発
88	-0.8(-)	112(+)	78(--)	林-ツグ高 梅雨活発 夏型不安定西冷 熱低近海で多発 冷害
89	-0.2(0)	70(-)	108(0)	林-ツグ高 梅雨寒 梅雨活発 夏型不安定 台風接近多い(6 個)
90	1.1(+)	98(0)	108(0)	空梅雨 梅雨期から猛暑 水不足
1991	0.2(0)	145(++)	87(-)	梅雨活発 盛夏期短い 東北・北陸梅雨明け遅 冷害 南西諸島高温
92	-0.2(0)	78(-)	100(0)	梅雨低温少雨 梅雨明け後猛暑 西・北日本 8 月低温
93	-2.0(--)	123(+)	71(--)	冷夏 冷害 多雨寡照 西日本大雨被害 南西諸島高温少雨
94	1.5(++)	63(--)	121(++)	空梅雨 7～8 月高温顕著 全国的な少雨多照
95	0.2(0)	117(+)	80(-)	梅雨期前半の低温寡照 後半の多雨寡照 盛夏期高温 北日本寡照
96	-0.3(0)	80(-)	93(-)	北冷西暑 北・東日本の気温の変動大 北日本寡照、南西諸島多照
97	0.4(+)	87(0)	102(0)	梅雨後半活発日本海側多雨 台風 3 個上陸 北日本、南西諸島寡照
98	-0.6(-)	167(++)	69(--)	夏型安定せず 北・東日本気温変動大 寡照 台風発生少ない
99	1.4(++)	120(+)	107(0)	北・東日本高温 西日本では梅雨明け後も多雨・寡照 南西諸島寡照
2000	1.3(+)	80(-)	109(+)	高温 東・西日本少雨 太平洋高不安定 雷雨 熱帯擾乱
01	0.2(0)	101(0)	95(0)	東日本以西高温 太平洋側少雨・多照 7, 8 月北日本多雨・寡照
02	0.2(0)	136(+)	92(-)	東日本以西高温 北日本多雨・寡照 西日本少雨・多照 南西諸島寡照 7 月に台風 2 個上陸

++：かなり高い(多い) +：高い(多い) 0：平年並 -：低い(少ない) --：かなり低い(少ない)

(2) 台風

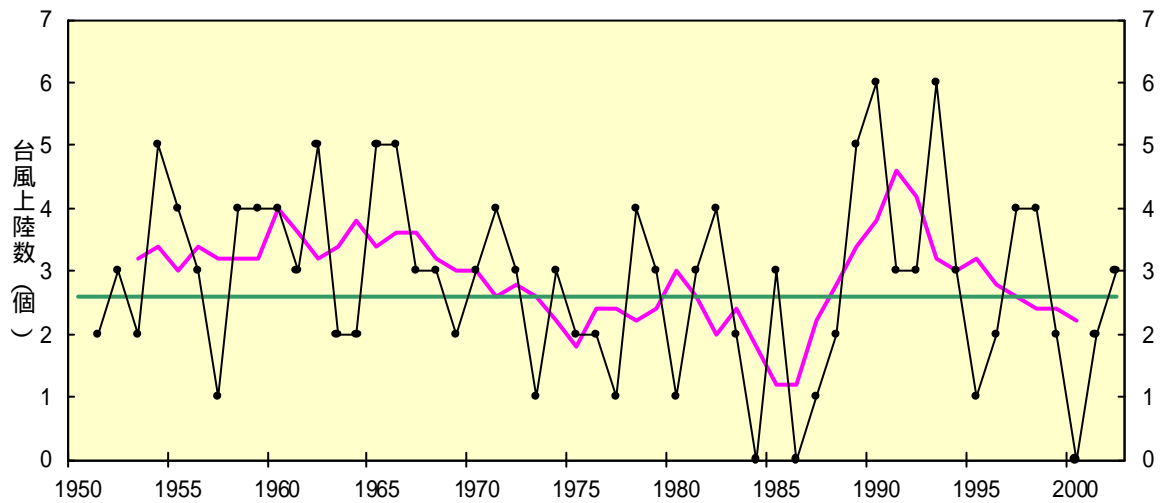
台風の年間発生数(平年 26.7 個)や年間上陸数(平年 2.6 個) 日本本土(北海道、本州、四国、九州)への接近数(平年 5.2 個)は、1970 年代から 80 年代前半までは少ない傾向だったが、80 年代末から 90 年代前半にかけては多い傾向があった。しかし、90 年代後半の発生数は平年を下回ることが多く、特に 1998 年は台風第 1 号の発生が 7 月と遅く、発生数も 16 個と最も少なかった。ただし、一昨年(2001 年) 昨年(2002 年)は 26 個と平年並に発生している。

上陸数は年々の変動が大きい。2000 年は上陸台風がなかったが、一昨年(2001 年)は 2 個、昨年(2002 年)は 3 個上陸し、本土接近数も 8 個と多かった。昨年は、東北地方で 7 月に相次いで上陸した台風第 6 号、第 7 号による大雨や、10 月の台風第 21 号による暴風雨により各地で大きな被害が発生しており、この夏も台風に対して十分な注意が必要である。



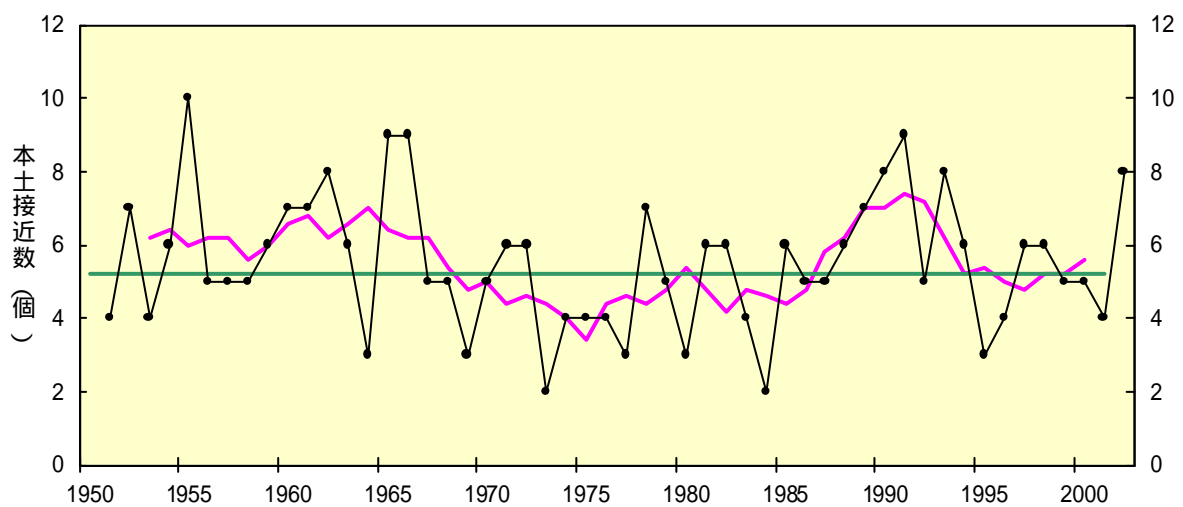
台風の年間発生数の経年変化

マーカー付細線：年間発生数 太線：5年移動平均 細線：25個 平年並の範囲 29個



台風の年間上陸数の経年変化

マーカー付細線：年間上陸数 太線：5年移動平均 細線：平年値 2.6 個



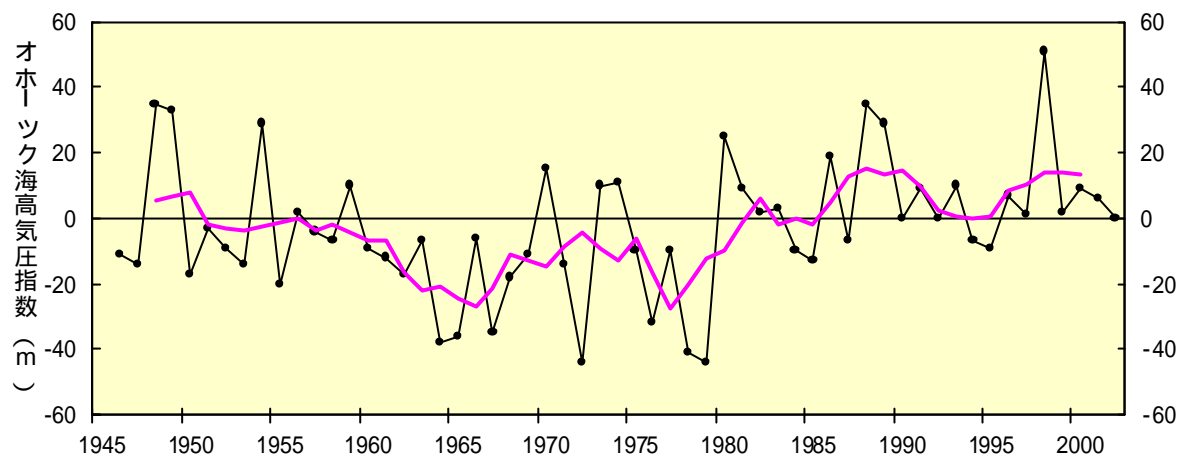
台風の本土接近数の経年変化

マーカー付細線：年間接近数 太線：5年移動平均 細線：平年値 5.2 個

(3) 最近の夏(6~8月)の循環場

オホーツク海高気圧指数は、オホーツク海付近に現れる高気圧の強さを見る指数で、正偏差の場合オホーツク海高気圧が北日本に張り出し、北から冷たい空気が流れ込んで東北太平洋側を中心に低温やぐずついた天候となりやすい。この指数の夏平均の経年変化を見ると、1970年代から経年的な上昇傾向が見られ、1980年代後半からは正偏差傾向が続いている。

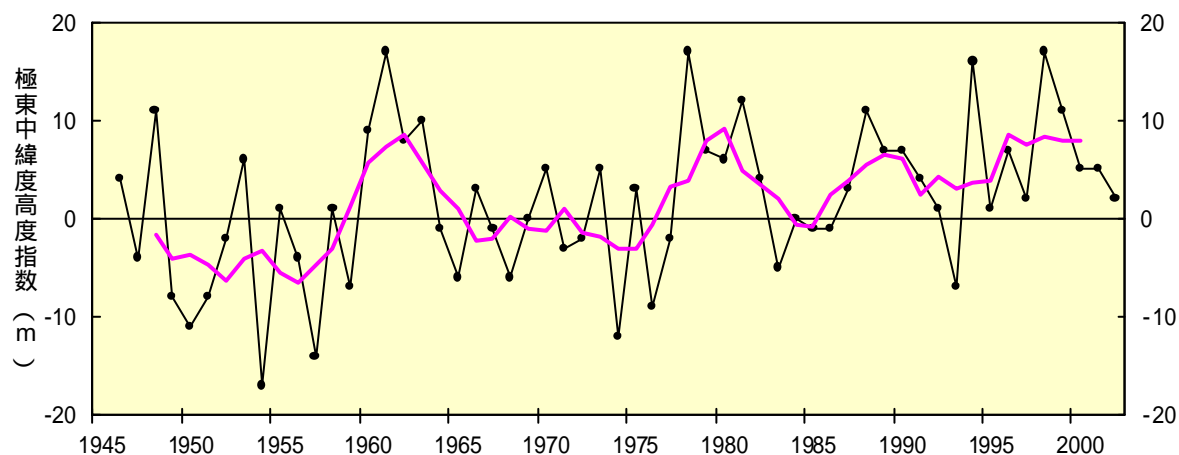
一昨年(2001年)は正偏差で、7月は太平洋高気圧に覆われ高温となったが、8月にはオホーツク海高気圧が北日本に張り出し、東北太平洋側では低温や日照不足となった。昨年(2002年)は平年並だったが、オホーツク海高気圧が北日本に張り出し低温となる時期があった。



夏平均オホーツク海高気圧指数の経年変化

マーカー付細線：夏平均オホーツク海高気圧指数 太線：5年移動平均

極東中緯度高度指数は、太平洋高気圧の強さなどを見る指数で、正偏差の場合寒気が南下しにくく太平洋高気圧に覆われて高温となる。この指数の夏平均の経年変化を見ると、経年的な上昇傾向が見られ、1980年代後半以降は1993年(極端な冷夏年)を除き正偏差で経過している。



夏平均極東中緯度高度指数の経年変化

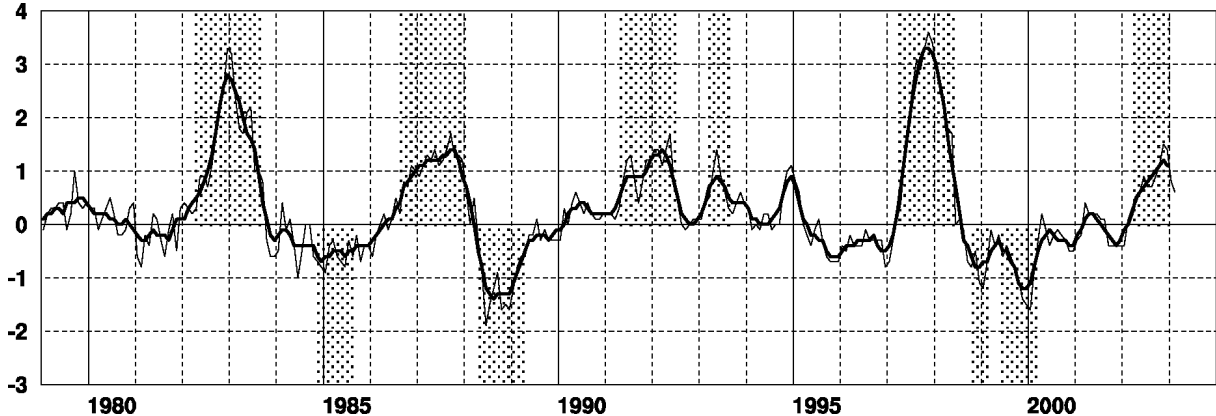
マーカー付細線：夏平均極東中緯度高度指数 太線：5年移動平均

最近、オホーツク海高気圧指数や極東中緯度高度指数共に正偏差の傾向を示しており、オホーツク海高気圧や太平洋高気圧の張り出しの有無や時期によって、東北地方では気温の変動が大きくなっていると考えられる。

オホーツク海高気圧指数や極東中緯度高度指数共にここ数年は平年並に戻る傾向も見られるが、この夏も引き続き正偏差になると考えられる。このため、東北地方ではオホーツク海高気圧や太平洋高気圧の影響を受けやすく、寒気が入って天気がぐずついたり、梅雨前線の活動が活発になる時期や、太平洋高気圧に覆われて高温となる時期があると考えられる。

2. 熱帯の大気・海洋と日本の天候

現在のエルニーニョ現象は、2002 年春に発生して以来、4 季節近く続いている。しかし、エルニーニョ監視海域（北緯 4 度～南緯 4 度、西経 150 度～西経 90 度）の海面水温の基準値（1961～90 年の 30 年平均値）との差は 2002 年末頃から減少し始め、2003 年 2 月には +0.6 まで低下し、南方振動指数（貿易風の強さの目安であり、正（負）の値は貿易風が強（弱）いことを示す）もほぼ平年並となった。

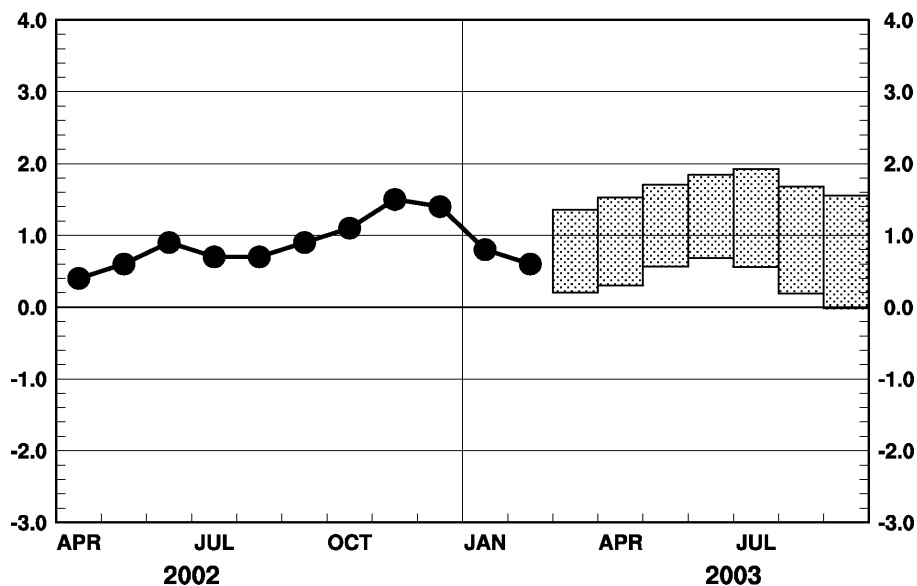


エルニーニョ監視海域の月平均海面水温の基準値との差（ ）の推移（1979 年 1 月～2003 年 2 月）

折線は月平均値、滑らかな太線は 5 か月移動平均値を示し、正の値は基準値より高いことを示す。エルニーニョ現象の発生期間は上側に、ラニーニャ現象の発生期間は下側に、それぞれ陰影を施してある（基準値は 1961～90 年の 30 年平均値）。

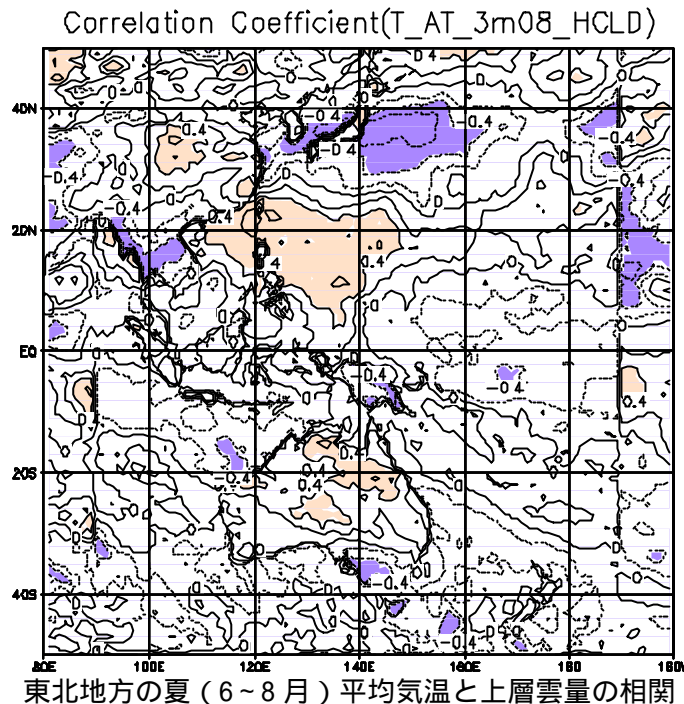
本日発表の「エルニーニョ監視速報 No.126」によれば、現在のエルニーニョ現象は春の間に終息すると予測され、夏以降、エルニーニョ監視海域の海面水温は基準値に近い値で推移すると見られる。なお、過去の事例では、監視海域の海面水温がこの 2、3 か月と同様の経過を辿った場合、夏までエルニーニョ現象が持続した例はない。

エルニーニョ現象は日本の夏の天候に大きな影響を与え、気温は平年並か低い、梅雨期間の降水量は東日本太平洋側や西日本で平年並が多い、梅雨明けは平年並か遅いといった傾向のあることが知られている。しかし、この夏はエルニーニョ現象が継続しない可能性が高いことから、これによる日本の夏の天候への影響は小さいと考えられる。

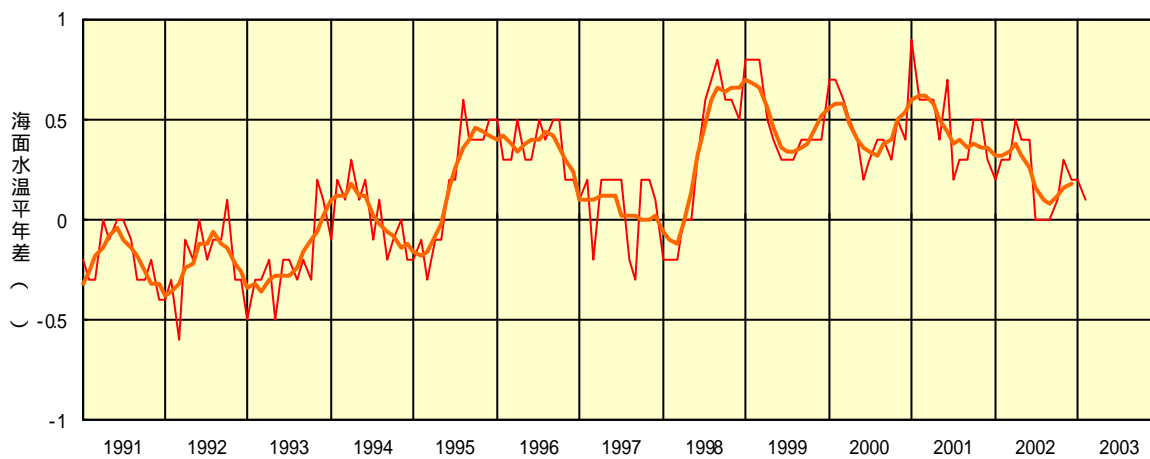


エルニーニョ予測モデルによるエルニーニョ監視海域の海面水温予測

この図は、エルニーニョ監視海域の海面水温（基準値との差）の 2003 年 2 月までの推移（折れ線グラフ）とエルニーニョ予測モデルから得られた今後の予測（ボックス）を示している。各月のボックスは、海面水温の基準値との差が 70%の確率で入る範囲を示す。（基準値は 1961～1990 年の 30 年平均値）



夏に西部太平洋熱帯域の海面水温が高い場合には対流活動が活発になり、それに伴う下降流が太平洋高気圧を強化することが知られている。この海域の海面水温は、1998年春以降かなり高い状態が続いていたが、昨年の後半から次第に低下し、2003年2月には+0.1 とほぼ平年並になった。この夏の西部太平洋熱帯域の海面水温は平年並と予想されており、同海域周辺での対流活動は平年と同程度に活発で、太平洋高気圧の日本付近への張り出しも平年と同程度と見られる。



西部太平洋赤道域の海面水温の経年変化
細線：西部太平洋赤道域の海面水温偏差 太線：5か月移動平均

3. 統計資料

重回帰法や類似法などによる統計資料では、東北地方の夏（6～8月）平均気温は概ね平年並、梅雨期間（6～7月）の降水量は多雨傾向を予想している。

また、シベリアのエニセイスク（58.4°N、92.1°E）の海面気圧を用いた東北地方の夏の気温予想では、夏、盛夏期共に平年並か高いと予想される。これは、経験的に知られている両者間のラグ相関に基づいているが、近年適中率が悪くなっている。

なお、気温の経過が類似していた年は、1956年、60年、67年、74年、86年、92年、96年、99年、2002年と9年あり、東北地方の夏平均気温は低温が3年、平年並が4年、高温が2年あった。エルニーニョ監視海域の海面水温経過が類似していた年は、1952年、54年、58年、64年、

66 年、70 年、73 年、77 年、78 年、83 年、87 年、88 年、92 年、95 年、98 年、2002 年と 16 年あり、東北地方の夏平均気温は低温が 5 年、平年並が 9 年、高温が 2 年あった。冬（12～2 月）の 500hPa 高度が類似していた年は、1959 年、79 年、86 年、87 年、92 年、98 年、2001 年と 7 年あり、東北地方の夏平均気温は低温が 2 年、平年並が 4 年、高温が 1 年あった。

4. まとめ

太平洋赤道域の大気・海洋の状態から、この夏（6～8 月）の平均気温は平年並と予想される。今後、エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生する可能性は小さく、日本の夏（6～8 月）平均気温が平年から大きく異なる可能性は小さいと考えられる。また、この夏の西部太平洋熱帯域の海面水温は平年並と見込まれ、フィリピン付近の対流活動も平年と同程度に活発となり、太平洋高気圧の日本付近への張り出しも平年並と見られる。また、統計資料からも夏（6～8 月）平均気温はほぼ平年並と予想される。以上のことから、夏（6～8 月）平均気温は平年並の可能性が大きい。

梅雨期間（6～7 月）降水量については、統計資料で東北地方は多雨傾向が明瞭となっている。また、この夏にオホーツク海高気圧が強まる時期があると予想され、寒気が入って天気がぐずついたり、梅雨前線の活動が活発になる時期があると予想される。また、最近数年は東北地方で多雨傾向となっている。以上から、梅雨期間（6～7 月）降水量は東北地方で平年より多くなる可能性が大きい。

なお、今後太平洋赤道域の大気・海洋や北半球循環場の推移等を注意深く監視し、必要に応じ予報を見直すことにしている。

< 参考資料 >

東北地方の平年のおおよその天気出現割合（日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
晴れの日（日照率 40%以上）	17.6	17.7	12.9	13.4	16.8	13.6
雨の日（日降水量 1mm 以上）	9.7	9.7	10.4	11.0	9.8	12.2

注：季節予報では、「日照率 40%以上の日数」、「日降水量 1mm 以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この 2 つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は 1 日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

東北地方の平年の梅雨入り・明けの時期

地域名	梅雨入り		梅雨明け	
	平年値	平年並の範囲	平年値	平年並の範囲
東北北部	6 月 12 日頃	6 月 10 日頃から 6 月 13 日頃	7 月 27 日頃	7 月 23 日頃から 7 月 30 日頃
東北南部	6 月 10 日頃	6 月 8 日頃から 6 月 11 日頃	7 月 23 日頃	7 月 21 日頃から 7 月 26 日頃